

丸型郵便ポスト

わが家の玄関先に置いてある、存在感たっぷりの「個人用の郵便ポスト」として使用しているポストの話です。



このポストがわが家に来るまでには、長い長い時間がかかりました。私が中学生の頃、友人宅の玄関先に置いてあり「わが家でも欲しい！」と思ったのが始まりですが、それからうん十年が経ち、思い立つ度に手を尽くしましたが、「昔なら郵便局の倉庫に転がっていて、無償で譲った。」というくらいの情報しか得られなく、時間ばかりが過ぎ、ネットが普及しオークションという形で 2000 年頃長野県のとある

方が保管してあった、このポストをやっと手に入れることができました。

このポストは前オーナーさんの話では 1980 年ごろ現役を引退し、それからは室内でディスプレイとして使われていたようです。錆も少なく程度は非常に良いものでした。屋外で風雨に晒され過酷な条件で設置されている事が多いポストですが、このポストに関しては経年劣化も少なく、良き時代感がそのまま残るポストでした。

残念なことに、集配の時間が書かれている板と、小窓の中の真鍮の板、収集口の底板、そして石の台座が無いことが悔やまれます。(写真の台座は後に記します。)

通常ポストは鋳物製で塗装が剥げれば重ね塗りの繰り返しで、ペンキが幾重にも重なり分厚くなっていて、台座上の筒状の部分が固着し一体になっていることが多いのですが、これは2分割できる状態でした。

郵便物の投入口と収集口が正面に向いていますが、道路条件など設置場所の関係で、投入口と収集口の位置をずらして設置できるよう、投入口の上部と収集口の下部がはめ込み式になっており、さらに位置決めの後に固定できるよう、内側から2本のナットが付いています。投入口を正面に見て、収集口が正面、右側、後ろ側、左側とバリエーションがあるのは、その様な仕組みの為に可能なわけです。

このポスト、2016年1月から塗装をすべてはがし、再塗装することに決め、その過程を記録として記述しました。

「分解・剥離・再塗装の様子」

御影石の台座からはずし2分割し、ばらした状態で、ペンキの剥離剤（スケルトン）を1回かけ、ワイヤーブラシでこすり、水洗いしましたが、塗装が厚すぎて表面がやっと剥がせた状態です。何回も何回も塗り重ねられた塗料は、厚いところで3mm～5mmもあり剥離剤で剥がすというよりも、削るといった作業が続きました。

すると、収集時間が塗装の下から出てきました。通常はここに白いブリキの板がはめ込んであり、そこに書かれるはずですが、何かの理由で直接書かれたようです。



塗装がはがれていくにつれ、いくつかのパーツで組み上げられている事がわかりました。パーツは全て、マイナスのネジにて組み上げられておりました。上部は大まかに4つのパーツでした。



上部の帽子のような形状のパーツ
投入口
投入口のひさしのようなカバー
本体



上部の突端

六角形の部分は裏側に貫通してはなく、ただの飾りのようでした。

投入口の様子 ひさしを外した後の投入口です。



投入口の白い部分は、ホーロー製です。投入がスムーズにできるよう、滑りやすくなっているようです。



投入口裏側には、2枚の鉄板が！

手を突っ込んで郵便物が抜かれないようにする為でしょうか、一つにはギザギザがあります。



ポスト内部から、外した差出口方向



とことん塗装を剥がした様子

集配時間の枠も外せましたが、今回は状態が良かったので分解しませんでした。こういった部品（パーツ）は全てマイナスのネジで固定されておりました。



内部も剥離しました。
ワイヤーブラシ
ワイヤーカップブラシを付けたグラインダー
剥離剤
スクレーパー
サンダー
とにかくいろいろな工具や道具で落とさないと長年の塗装は落ちませんでした。



本体下部に
昭和 25 年
東京鋳物株式会社製
の刻印が塗装の下から出てきました。
ネットで検索してみましたが、現在会社は見当たりません。



本体内部を下から上方向
下の突起は、台座に固定させるための金具をはめるところです。



塗装剥離とさび落としが終了し、塗装前の姿です。
錆による腐食は全くありませんでした。
一安心です。ポストのイメージではなく、物々しい
雰囲気です。



さて、ここから塗装です。
最初に赤さびを封印するための塗料を
塗ります。これはなかなかの優れもの
です。ワイヤーブラシで完全に赤さび
は落としましたが、念のためこの塗料
で下塗りを兼ねて、完全にさび止めを
行いました。左は1回目の塗装です。



パーツは全て組み上げながら、パーツ間の隙間は元のようにパテを使い完全になくします。その後サビキラーを3回重ね塗りしました。



本塗装は、近所のペンキ屋さんで調色をして頂いた塗料です。剥がした塗装をお店に持ち込んで、調色してもらいました。

郵政レッドではなく、紫外線により少し経年劣化した感じのオレンジ系の赤になりました。

郵政レッドでの塗装は、違法になります。

また、色が濃すぎて重い雰囲気になり、玄関先に置きには不向きな気がしました。

2kg作ってもらいましたが、十分な量でした。



たっぷり！



いっきに！



スタッフは春休み中で帰省した3人の息子たち + 甥1名です。塗装など全くの素人ですが、塗料が良いのかきれいに仕上がります。厚めに2度3度と塗り重ねました。



投入口も



それらしくなってきました！



と言う訳で、完成です。
3か月かかりました。
仕事の合間、と言っても、甥っ子がコツコツとやっておりました。
私は技術指導だけ（笑）
製造から 66 年、初めてのお色直しだと思います。
我が家の玄関先にセットしましたこれからもずっとわが家の顔として一緒に生活していけることと思います。

玄関先も屋根の下です。屋外よりは多少雨風はしのげると思います。家族同様一生大事にしたい宝物です。

「余談①」



収集時間の板が挟める抑え金具です。
塗装を剥がしたらステンレス製でした。
あえて塗装せず、アクセントにしました。



「余談② 台座」



このポスト購入時には台座はついておりませんでした。

無いと全く様になりません……

石屋さんに頼んで作ろうかと考えたことも……でも時代が。。

ある時、たまたま普段はあまり使わない道での遠方からの帰り道、ある家の生垣に丸い石が4個立てかけてあり、んんんん……！！！！！！

速攻Uターンして確認！

紛れもないポストの台座でした。

さっそく交渉し、邪魔だからと譲ってくれることに、急いで家に帰り車をトラックに乗り換えて、引き取りに行きました。

終始「どうか気が変わりませんように！」と唱えながら（笑）

一番状態の良い良い高さのあるものをチョイスし積んでもらい、お金を払い終えもう気持ちは絶頂でした。ちなみに後日またここを通ったときは、残りの台座はありませんでした。昔、造園業をしていて撤去の仕事を請け負っていたそうでした。ポスト自体はとうの昔に屑鉄屋さんに売却してしまい、台座だけ処分に困り放置されていたとか。

この台座、もともと底面は埋めてしまうので凸凹です。石を割ったままの状態です。表面も手作業で「びしゃり」加工されています。チョイスする前、すべて見比べましたが、表面の丸みの微妙な加減が様々でした。Rのきついもの、お饅頭みたいなべったりとした形をいるものと、いろいろでした。ただ、表面に垂れているオレンジのペンキの痕と固定の穴、そして湿気対策でしょうか、ポスト本体とあたる部分に3個の四角い穴が開いていることは、紛れもないポストの台座です。

平らなところには置けないので、取引先の石屋さんに真っ直ぐに切ってもらいました。

重さも結構あります。大人4人では動きません。真ん中に本体と固定するための穴が貫通していますので、そこにアイボルトとシャックルでワイヤーをかけ、ユニックで吊りあげての設置や移動です。ポストの転倒防止と盗難防止にはもってこいの代物です。

「余談③ 鍵」



このポストには鍵がありました。
昭和 56 年と書いてあります。
たぶん製造時の鍵は劣化により交換となったのでしょうか。
今回、外して、すべて分解しメッキ加工をしました。

なかなか鍵付きは手に入りません。

当然郵政省も悪用防止に外したうえで処分なのでしょう。
開けるカギはありませんでしたので、私がコツコツと作りました。
カギの形状は、もちろん公開はしません（笑）

鍵の左下の塗装忘れの部品は、たぶん投函物が下の隙間から出ないようにする為の抑え金具と思われます。裏に真鍮のプレートがあるはずなのですが、ありませんでした。プレートはスライド式で、なんでも集配後に動かして表示するとかしないとか、無いのでわかりません・・・

以上、思い付きで始めた分解・塗装でした。
お付き合いくださいまして、ありがとうございました。

2016 年 4 月 25 日
山野井 喜仁